

平成 18 年(2006 年) 4 月 25 日 制作

## 私の 1 枚、私の一言

小川 二一 (全国グアム島戦友会 副会長)



**この写真は** 戦時中グアム島への輸送船だった東山(とうざん)丸の、戦後の姿です。

私は昭和 19 年 2 月 20 日頃満州からグアム島へ移送される時釜山港で、行き先不明と言う事でこの東山丸に乗船しました。私達は途中 2 月 22 日頃日本の宇品(うじな)港沖で四日程停泊し、全員冬服から夏服に着替えさせられました。しかし日本本土に乗降

することなく、再び行き先不明と言う事でグアム島に移送されたのです。

私達が釜山港を出港した時は、安芸(あき)丸、讃起戸(さきと)丸、東山丸の三艘の輸送船でグアム島に向かいました。どの船も兵士ですし詰めの状態でした。しかしグアム島に着く 3 日程前の 2 月 26 日頃の午後 3 時過ぎ、讃起戸丸は中央の機関部分に米軍の魚雷を受け数時間後、沈没してしまいました。又安芸丸は第一船艙に魚雷を受け前方半分が水没し、半分傾いたまま約三日後の 3 月 1 日頃グアム島に着いたのです。ですから、この写真の東山丸だけが、無傷でグアム島に到着したのです。

この写真は、右側に立っておられる鈴木正督さんからお借りしたものです。

昭和 27 年秋に名古屋市港区の名古屋造船(株) 1 号ドックで撮られたもので、鈴木さんは当時船の設計士で、東山丸の修理をされたとのことです。

鈴木さんは私と同じ大垣在住の方で、偶然知り合いになりいろいろ話しをする中で、この写真の存在がわかり、この度お借りする事が出来ました。(この「一言」の原稿もご覧になっていただきました。)

東山丸が戦争中撃沈されることなく、戦後も就航していたかと思うと感慨深いものがあります。

(大正 9 年 1 月 15 日生 陸軍上等兵)